

# ちとせ観光通信

～千歳一遇～ せんざいいちぐう

発行 一般社団法人 千歳観光連盟

066-0019 北海道千歳市流通3丁目4-1

電話 0123(24)8818

FAX 0123(24)8819

2025年12月22日発行 【再刊第42号】

## 今号の話題

- 氷濤まつり制作作業が進行中  
新たな氷像もお目見えへ
- サンタダイバーと記念撮影  
サケのふるさと千歳水族館
- 自慢の歌声で社会に貢献  
チャリティーカラオケフェス

## 千歳・支笏湖氷濤まつり

### 氷像制作作業、着々と進行

今年も大小30基、新氷像を登場予定

2026年1月31～2月23日

2026年1月に開幕する「千歳・支笏湖氷濤まつり～氷の美術館 支笏湖ブルーの世界」の会場制作が急ピッチで進められています。会場にはすでに丸太や鉄パイプなどで骨組みが組み立てられ、

12月下旬から湖水の散布が始まる見通しです。今年も約30基の氷像が登場し、中には初めて制作に挑戦する意欲作もお目見えを予定しています。



まつり会場には骨組みが立ち並び、散水作業の開始を待っています

2026年1月に開幕する「千歳・支笏湖氷濤まつり～氷の美術館 支笏湖ブルーの世界」の会場制作が急ピッチで進められています。会場にはすでに丸太や鉄パイ

プなどで骨組みが組み立てられ、  
2026年1月に開幕する「千歳・支笏湖氷濤まつり～氷の美術館 支笏湖ブルーの世界」の会場制作が急ピッチで進められています。会場にはすでに丸太や鉄パイ

セ、夜間は色とりどりにライトアップされた幻想的な光景が訪れた人を迎えます。道内屈指の冬のイベントで、今年1～2月に開催した前回は13万1072人が来場しました。

会場内には骨組みが並び、丸太や鉄パイプをはじめ、支笏湖地域の森の不要な樹木から得た枝なども使用しています。今後は漁網や農業用ネット、さらにマツの枝を取り付けて、ポンプでくみ上げた水をノズルで吹き付け、少しづつ氷を厚くしていきます。

今回のまつりでは、今年も高さ6メートルの展望台が登場。かまくら状の氷像の内部に氷のシャンデリアを設け、美しい空間を演出するスポットもあります。シンボルの「ブルータワー」は高さ13メートル。全長約40メートル、高さ9メートルの氷の壁「アイスウォール」は迫力で来場者を圧倒します。新たな氷像も制作予定です。マ

観光連盟が事務局を支援する国際公園支笏湖運営協議会の主催。会期は2026年1月31日から2月23日まで。昼間は「支笏湖ブルー」と呼ばれる独特の青さが特徴的な氷像が並び来場者を楽しんでいます。

る高さ5メートルの氷の壁の間に  
ある、幅1メートルの通路を進む  
「氷の細道」は、氷の青さと美し  
さをより間近で楽しめます。

好評の焚火で焼いたマシュマロ  
を味わうス。ポットはシラカバを使  
い森の中にいるような空間にしま  
す。温かい飲み物で暖を取るアイ  
スキッキンはスペースを広げてよ  
り多くのお客さまに楽しんでもら  
えるよう環境を整えます。

## 継承の技光る制作作業

### 暖気に負けぬ氷像造り



制作は11月下旬から始まり、ス  
タッフ15人が作業を進めていま  
す。50年近い歴史を誇るまつりだ

けに、制作作業のノウハウは蓄積  
され、スタッフの技が光ります。  
散水作業では風向きを見ながら、  
骨組みから近すぎず、遠すぎない  
絶妙な位置から水を吹き付けま  
す。近すぎるとせっかくできた氷  
に穴があき、遠すぎると骨組みに  
届く前に凍つてしまい像が太らな  
いとのこと。気温は氷点下5～同  
8度が好ましく、適度な風がある  
ことでよりきれいな氷像ができる  
ます。散水のプロセスで雪が降らな  
ければ、氷はより濁りがなく透き  
通ります。



松の枝を骨組みに掛け「苔の洞門」  
を作っています

作業に先立つ11月下旬には園地  
内の支笏湖神社で安全祈願祭を執  
り行い、神職の祝詞と関係者約60  
人が出席して、玉ぐし奉奠で、制  
作作業の安全と千客万来を祈願し  
ました。

## 人の技と自然織りなす 天然の造形美の魅力

気温や天候に左右される制作作  
業は人が思い描いた通りの氷がで  
きず、自然と人の技が織りなす造  
形芸術と言えます。観光連盟副会  
長で、会場制作を統括する小林典  
幸会場制作管理部長は「安全に造  
りたいし、見栄えも良くしたい。  
どちらも大事な要素」と言います。  
今年制作する新たな氷像にも触れ

2024年は暖気のため、会期  
途中でまつりを中止せざるを得ま  
せんでした。以来、暖気が到来し  
ても安全を確保できるよう、骨組  
みを頑強に組み立て、今年も氷を  
より厚くする予定です。

入場料は中学生以上1000  
円、小学生以下無料です。開催時  
間は午前10時から午後8時。ライ  
トアップは午後4時半からです。  
期間中はガイドツアーや、団体客  
向けに制作スタッフによる観覧ツ  
アも行われる予定です。

今年もまつり期間中は、新千歳  
空港から千歳駅を経由して支笏湖  
温泉を結ぶ「氷濤ブルーライナー」  
を運行します。空港発7便、支笏  
湖温泉発は9便を運行する予定で  
す。中学生以上2000円、小学  
生1000円、未就学児は無料で  
す。前日午後8時までに予約が必  
要で、お問い合わせは電話011  
(206) 0225。どうぞご利  
用ください。

「挑戦することが楽しくやりがい  
があります。マンネリにならない  
よう、新しい氷像を少しづつ取り  
入れている会場をお客さんに楽し  
んでほしいです」と話しています。

があります。マンネリにならない  
よう、新しい氷像を少しづつ取り  
入れている会場をお客さんに楽し  
んでほしいです」と話しています。

## サンタダイバー登場

記念撮影に子どもたち笑顔

サケのふるさと千歳水族館

サケのふるさと千歳水族館で12月20、21両日、恒例のサンタダイバーによる記念撮影会が開かれました。訪れた親子らが、水槽内のサンタクロースと写真を撮り、クリスマスの思い出をつくりました。



サンタダイバーに子どもたちは大喜び

カラフルな風船やサンタクロースがあしらわれた、クリスマスらしい飾りつけをしたアーチが設けられた支笏湖水槽前には、水族館のキャラクター「サモンくん」がサンタの赤い帽子をかぶつて登場。サンタクロースが登場すると、子どもたちからは歓声がおきました。

預かったスマートフォンを手にしたスタッフが「はい、サーモン」

の掛け声で撮影しました。被写体の中を泳ぐサンタクロース。来場者はピースサインをするなどしてサンタと一緒に撮影し、子どもたちの笑顔が広がりました。同水族館ではシャンパングラスにイクラを入れたツリーを展示。年末年始にも特別企画を用意しています。

第7回千歳年末チャリティーカラオケフェスティバルが今年も北ガス文化ホールで開かれました。千歳商工会議所、千歳圏人会の主催。観光連盟も協賛。市内の企業、業界団体、行政、各種団体等の関係者が参加して自慢ののどを披露し、益金を千歳市奨学基金に寄付する恒例のイベントです。

歌声で年末を盛り上げ  
益金は奨学基金に寄付  
チャリティーカラオケフェス  
今年で7回目 年末の恒例



出場者は思い思いの衣装で熱唱しました

国の人気ロックバンド「クイーン」のボーカルフレデイー・マー・キュリーに扮する人まで様々で、ジ・アルフィー、玉置浩二、野口五郎風の衣装や髪形で、歌う本人に寄せた姿も見られました。

団体の取り組みをPRする横断幕やのぼりを要する出場者も。来場者はカラフルなペンライトを振り、歌い終わった出場者に花束を渡す場面もあるなど、笑いと歓声で1年を締めくくりました。

やきらびやかな仮面ライダー、英

## イベント情報

▼ノーススノーランド in 千歳  
(2025年12月30日から。ザ・ノースカントリー・ゴルフクラブ内) 北海道らしい雪のアクティビティを楽しむ会場内。入場料は中学生以上の大入800円、子ども500円、5歳以下無料。チュー

ブスライダーと雪体験コーナーを遊び放題です。オプション料金の必要なアクティビティは、ミニスノーモービル、四輪バギー、スノーラフティングなど。千歳・支笏湖氷濤まつりとの連携イベントです。

▼年末年始水槽展示 (2025年12月20日～2026年1月12日、サケのふるさと千歳水族館) 水中観察ゾーンで「行く年」を振り返り、「来る年」に思いをはせり「行く年來る年」水槽を展示。「行く年」水槽では25年の干支「巳

(ヘビ)」に似た魚「スネークヘッド」の展示と開催イベントをふり返ります。「来る年」水槽では、2026年の干支「午(ウマ)」に似た魚「ホースフェイスローチ」を展示し、26年の年間行事を紹介します。また12月28日、1月2日の各午前11時から、支笏湖大水槽には馬(午)に仮装したダイバーが登場します。

▼氷の美術館・千歳支笏湖氷濤まつり (2026年1月31日～2月23日、千歳市支笏湖温泉) 国立公園支笏湖運営協議会主催。例年、大小約30基の氷像が登場します。昼間は日本屈指の透明度を誇る支笏湖の湖水が織りなす青い氷像群が、夜間はライトアップされた会場が、来場者を迎えます。観光連盟が事務局を支援しています。入場料は中学生以上1000円、小



## 編集後記

温泉や銭湯でゆっくりするのが趣味の一つ。家風呂とは違う開放感があります。脱衣所や洗い場、浴槽でのささやかな場所の譲り合いに、人情を垣間見ることもあります。

この年末、千歳からまた一つ銭湯が消えます。燃料費の高騰、設備の不具合、多額の更新費用から営業継続をあきらめたようです。「銭湯すたれば人情すたる」。そう書いたのは詩人の田村隆一さん。銭湯は周囲へのささやかな気遣いを学ぶ場です。

業態を問わず、地場の産業をより大切にしたいと再認識した年の瀬です。今年一年、ありがとうございました。来年が皆さまにとつてより良い年でありますように。(ひ)